



題字 井口 文章  
再刊 第244号  
印刷・発行  
錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2017

みんなでつくる  
錦城高校新聞

一面：錦城祭、天候にも負けない熱気  
後夜祭、初となるカラオケ大会も  
二面：熱盛の秋季球技大会  
決勝戦& MVPインタビュー特集

# 新しい創造の風を巻き起こせ！

## 第54回錦城祭開催

9月16日(土)、17日(日)に2日間に渡って開催された錦城祭が大盛況の中、幕を閉じた。接近していた台風の影響で天候は優れなかったが、1日目と2日目合わせて約4800人と多くの人々が来場した。

### 31の本格的な演劇

31の演劇「ナツヤスミ語」で立ち見客が続出するほどの人気ぶりだった。第1公演力ブト役の村田真唯さんは「最後の文化祭を全力で頑張りたい」と本番前に語っていた。クサナギ役の木村修人さんによ



趣向を凝らした様々な企画が多く、たくさんの人が錦城祭を楽しんでいた

### 2Gのストレス発散

2Gのクラス企画はストレス発散日「華押忍！」。ストレス発散コーナーの始めは紙張り。係の生徒が両手でピンと張った紙を、思いっきりパンチする。「パンチで思いに紙を破るのは、想像以上に快感だった」という声もあがった。他にも、ボールの壁投げ、射的コーナーなどなどストレス発散コーナーが盛りだくさんだった。



31の手に汗握る迫真の演技



観客を魅了する体操部

## 委員長に聞く、成功の裏の努力

錦城祭2日目はあいにくの雨だった。錦城祭実行委員長の野村愛未さん(2G)によると、実行委員会から企画の変更を頼まなければならなかったところ、先に企画団体自ら提案してくれたそうだ。錦城祭実行委員は当日忙しいのに、提案してくれたのはありがたかったと野村さんは感謝する。



カラオケ大会の順位づけの様子

## K級グルメ

新校舎5階で3Hは水あめを売っていました。水あめはサイダーとプレーンの2種類。果物はみかん、パイナップルなどの4種類から選べます。モノカをお皿にして、ひんやりとした水あめとみずみずしい果物にのせていただきます。見た目もかわいく、食べやすい！果物のジューシーさと水あめの上品な甘さがマッチしていて、とても懐かしい味でした。

バスケットでは3Fが「Fried OREO」を販売。オレオを揚げたことでチョコクッキー生地はサクサクです。味は「プレーン」と「シュガー」の2種類。「プレーン」はココアのほのかな苦味を楽しめ、「シュガー」は砂糖のつづつが感が味わえました。サンドしてあるクリームはバタークリームのように濃厚でなめらかでした。一口食べれば口の中でほろっとくずれ、ココアの甘さが口いっぱいに広がります。買えばすぐに揚げたてアツアツを食べることができました。



サクサクのFried OREO

説明しよう！ K級グルメとは！  
B級グルメほどではないが、錦城生が作り出したグルメの最高傑作たち！



色鮮やかな水あめとフルーツ



「KBCラジオの時間です」

放送部、先生と公開生放送  
放送部は新校舎5階で初となるKBCラジオという企画を行っていた。1日2回午前と午後先生をゲストとして迎え、ラジオの生収録を行う。1日午後のゲストは理科の甘来先生で立ち見も出るほどの賑わいだった。先生がくじで引いたお題に沿ってトークするコーナーでは「初恋」がテーマとなり、会場からは笑いが湧き起こる。先生は「小学生の時でしたよ」と思いつく語り、生放送は終始楽しい雰囲気に包まれていた。

来年度の錦城祭に向けて  
「文化的というテーマが掲げられ、新たな企画や試みがたくさんあった錦城祭。ただ、屋外の飲食企画では待ち時間が長く、せっかく並んでも商品を購入することができないなど、改善すべき点が多く見られた。各団体とも今回出た反省などを生かしながら、来年度に向けて更に良い錦城祭を作っていく。」



歌をアナ雪の踊りで盛り上げる

## 拍手喝采の後夜祭 新企画「カラオケ大会」も

最終日の後夜祭は、接近する台風により実施が危ぶまれるも無事開催された。今年は、



キラのあるダンスを披露

後夜祭終了後、観客に話を聞くと「歌が好きなのでたくさん聞けて良かった」「2日間の締めくくりにふさわしい盛り上がりだった」との感想もあつたが、「かけ声などが、知り合い同士の内輪で盛り上がりつつあるように感じた」という声もあつた。このような意見も踏まえ、今年度の三送会や来年度の後夜祭に期待していききたい。

### むらさき草

映画館で夏に上映されていた『君の膵臓を食べたい』の原作を先日読んだ。小説は映画と比べると少し違っていて面白く、夢中になって一日で読み切った。季節は秋、「読書の秋」だ。ちなみに「読書の秋」の由来は知っているだろうか。一説には唐の歌人、韓愈の「燈火よりよく親しむべく、簡編、巻舒、けんじよすべし」という詩からきているそうだ。秋になると涼しさが心地よく感じられ、灯りの下で読書をするには丁度いい季節という趣旨で、ここから読書といえは秋となったらしい。ところで、NHK放送文化研究所の「国民生活時間調査」によると、2005年と2015年の漫画、雑誌、本を合わせた読書平均時間を比較すると、国民全体で平日平均13分から12分へ、日曜は17分から14分に変化した。同調査で高校生の結果を見ると、平日は23分から8分に顕著に変化している(NHK国民生活時間調査HPより)。また、2013年の別の調査では、一か月に本を一冊も読まない、と回答した人を年代別に見た時、16歳〜19歳は47.2%が読まないという結果が出た(文化庁HPより)。この資料を見ると若者の「読書離れ」が広がっているようだ。とはいえ、文化庁の同調査で2002、2008、2013年の比較を見ると、本を読まない人の割合は実は全世代で増加している。若者に顕著ではあるが、日本全体で読書時間は減っていることが分かる。本は、自分が魔法使いになったり、ゾンビになったり、特殊な能力が使えるようになったり様々な人生を疑似体験できる。本は私たちが日常から「非日常」の世界に連れていかけてくれる。文化祭も終わり、テストも近づいてきたけれど勉強の合間を上手く使って、「読書の秋」を思う存分満喫しよう。

(露)



